

急成長する東南アジア経済を背景に 世界の大企業が続々と拠点を設置する 製造未来都市国家シンガポール

中産階級が牽引するダイナミックな経済成長を背景に、日本企業の東南アジアへの進出が加速する中、アジアに設置されたグローバル企業の地域統括会社の46%がシンガポールに設置*されています。

シンガポールが製造未来都市国家として
急成長している東南アジアの拠点に選ばれる理由は：

世界トップクラスのインフラと多様な人材プール

- 🏆 「ザ・エコノミスト・インテリジェンス・ユニット(EIU)世界ビジネス環境ランキング」(2023)世界1位
- 🏆 「国際人材競争力指標」(2022)アジア1位、世界2位
- 🏆 「IMD世界競争力ランキング」(2022)アジア1位、世界3位
- 🏆 「WIPOグローバル・イノベーション・インデックス」(2023)アジア1位、世界5位
- 🏆 「世界銀行事業環境ランキング」(2021)世界2位

インダストリー4.0時代に求められるより柔軟で強靱なサプライチェーン構築に対する可能性

- 🏆 「IMD世界デジタル競争力ランキング」(2021)アジア1位、世界4位
- 🏆 「WEF国際競争力ランキング」(2019)IP保護 世界1位、(2020)デジタル技術 世界5位
- 🏆 FTAや貿易協定など戦略的パートナーシップは65か国以上

主要な世界市場への迅速かつ経済効果の高いアクセス

- 🏆 「世界銀行ハイテク製品輸出総額調査」(2020-21)世界4位
- 🏆 東南アジアのどの国へも6時間フライト圏内、100社以上の航空会社が世界100か国以上に就航
- 🏆 「IMD持続可能な貿易指数ランキング」国際貿易を通じ経済成長を促進する能力を評価する「経済」項目で100点満点を獲得(2023)総合アジア1位、世界3位

世界的なデジタル化の加速と東南アジア経済の急成長によって、シンガポールはイノベーション拠点の最有力候補地に：

- ・ 2030年までのASEAN(東南アジア諸国連合)の経済規模推定世界第4位
- ・ 2015-20年のVC投資総額5.2倍に拡大
- ・ ASEAN諸国の2022年のユニコーン数52社内25社がシンガポール発

環境関連においても社会課題解決の拠点となるべく「シンガポール・グリーンプラン2030」環境行動計画を策定し、グリーンファイナンスなど、新たなビジネス機会の創出も目指しています。

*出展：世界銀行



主なシンガポール進出企業例

日立、住友化学、横河電機、長瀬産業、鹿島建設など

ビンタン・バタム・シンガポール経済圏の相乗効果

シンガポールにHQ、先進製造拠点、R&Dセンターを置くことで、広範なFTAネットワーク、コネクティビティ、人材、資金調達、IP保護などのメリットが得られます。更に、国境付近のバタム・ビンタン島に製造拠点を設置することで、土地価格、人件費、光熱費などの費用が比較的安価に抑えることができ、経済圏の相乗効果を得ることが可能です(例：パナソニック、三洋電機、シマノ、大林組、他)。

シンガポール経済開発庁(EDB)はエンタープライズ・シンガポールおよび民間企業パートナーと、東南アジア製造業アライアンス(SMA)の協定を結んでいます。一定の基準を満たした企業は、金融資本、人材、知財など、シンガポールのエコシステム、人材、ネットワークが活用できます。また、2001年から企業ベンチャーの創出を支援するプログラム「CVL」を展開し、約30億円の助成金を支給しています。詳細は[こちら](#)(英語のみ)。